

認知症画像検査のご案内とPET稼働のお知らせ

放射線診断科 部長 寺江 聡
放射線部 撮影技術課長 貴志 孝行

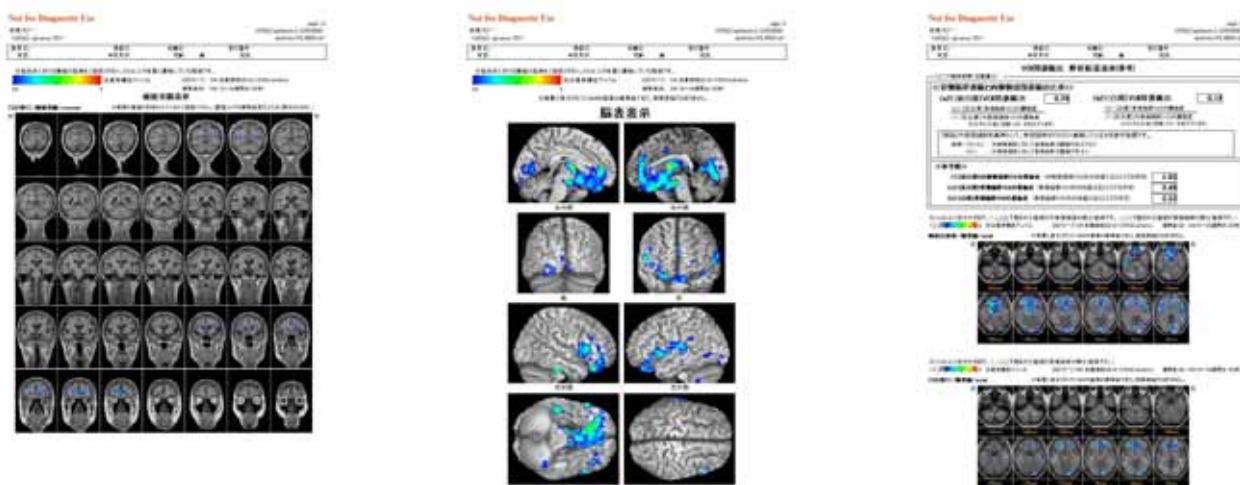
進行する高齢化社会において認知症の患者数が増加しています。

認知症の鑑別診断には画像診断が広く用いられており、市立札幌病院としても、地域連携を通じた装置の有効利用を目指した対応をしているところです。

今回は、当院で行っている認知症検査を目的としたMRI検査、核医学検査についてご紹介させていただきます。

MRI検査は、脳血管障害やアルツハイマー型認知症で特徴的とされる側頭葉内側部の萎縮などを形態的に評価できる画像診断法ですが、VSRADを利用することでMRI画像を灰白質、白質、脳脊髄液に分離し、標準脳への形態変換を行い統計的な手法によって内側側頭部の病的な萎縮を高精度に判定することができます。

MRIにおいてVSRADを用いた画像診断報告例(脳形態評価一部抜粋)

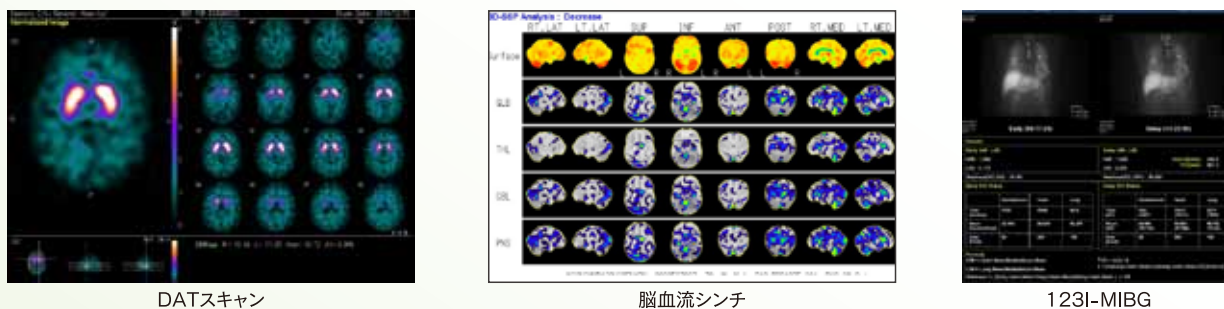


また、核医学検査においてはMRI検査などの形態学的な評価とは異なり、脳血流や代謝を評価する機能的画像診断法として利用されておりますが、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症など、様々なタイプの血流や代謝部位の低下の違いを3D-PPSやe-ZISなどの統計的解析によって評価することが可能です。

さらに神経系のイメージング薬として123I-イオフルパン(DATスキャン)や123I-MIBG心筋シンチグラフィも常時行っており、複数の検査を最短期間で終了できるように努めております。

早期に認知症を診断し、最適な治療方法を選択して頂くためにも、当院のMRI検査、核医学検査をお役立て下さい。

核医学検査報告例(脳血流評価一部抜粋)



DATスキャン

脳血流シンチ

123I-MIBG

現在、GE社製PET/CTの導入が決まり、平成28年4月の本稼働に向けて作業を行っております。

当院では、FDGを用いて、主に腫瘍の診断を行う予定です。

これらの検査結果につきましては、専門の放射線診断医によるレポートが添付されますので、合わせてご紹介させていただきます。

市立札幌病院では、今後も計画的に高度医療装置の導入を予定しておりますので、当院の放射線検査設備を是非、ご利用ください。